

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-53C	12-326	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Influences of tobacco and alcohol use on hepatocellular carcinoma survival. タバコの影響と肝細胞癌生存に関するアルコール摂取。		
執筆者		
Shih WL, Chang HC, Liaw YF, Lin SM, Lee SD, Chen PJ, Liu CJ, Lin CL, Yu MW.		
掲載誌		
Int J Cancer.2012 Dec 1;131(11):2612-21. doi:		
キーワード		
タバコ、肝臓癌、		
要 旨		
<p>目的： 肝細胞癌（HCC）の予後は、一般に悪い。HCC 生存に関する修正可能な生活様式因子の役割は、余り研究されていないので、本研究で明らかにする。</p> <p>方法： 診断前の喫煙とアルコールが原因ウイルスによって階層化される HCC 生存に影響を及ぼしたかどうか調べるために、台湾の多施設治験から 1997～2004 年に登録され 2007 年までフォローアップされた 20-75 歳の 2,273 例（1990 例はウイルス性肝炎、283 例は他の原因）の HCC 症例の前向きコホート研究を行った。習慣的喫煙とアルコール消費に関する情報は、個人面接により試験開始時に得た。</p> <p>結果： 最高 10 年間の追跡調査の後、1,757 人の参加者が死亡した。その中で 1,488 人（84.7%）は HCC に起因した。診断前の喫煙とアルコール習慣は、互いに独立し、また他の臨床予測因子からも独立して、予後を悪化させた。両者の危険を及ぼす効果は、ウイルス性肝炎関連の HCC に限られ、初期 HCC 患者の間でより著明だった。HCC の死亡率のリスクは、喫煙量（パック・年）とアルコール摂取量（$p < 0.001$）の増加で高くなり、2 つの習慣の影響は相加的 [アルコール 46.2g/日と 10 パック・年の危険率 (HR) = 1.72 (95%信頼区間 (CI) = 1.45-2.05)] であった。いずれの習慣も、止めることにより HCC の死亡率は低下した。しかし、統計的に有意な死亡率の低下は、止めて 10 年後に起こった（断煙 10 年対継続喫煙者：HR = 0.77、95%CI = 0.61-0.97; 断酒 10 年対飲酒継続：HR = 0.74、95%CI = 0.56-0.98）。</p> <p>結論： ウイルス性肝炎関連 HCC の患者の間で、前診断の喫煙と飲酒習慣は、HCC 生存に影響を及ぼす。喫煙を止めること、アルコールを止めることは、過剰なリスクを低下させたが、その効果は長期間の停止後に始めて有意となった。</p>		